

概要版

荒尾市地域福祉計画

- 地域福祉活動計画

【第3期】

(素案)

2018（平成30）年度～2022（平成34）年度

平成30年1月

荒尾市

荒尾市社会福祉協議会

計画の概要

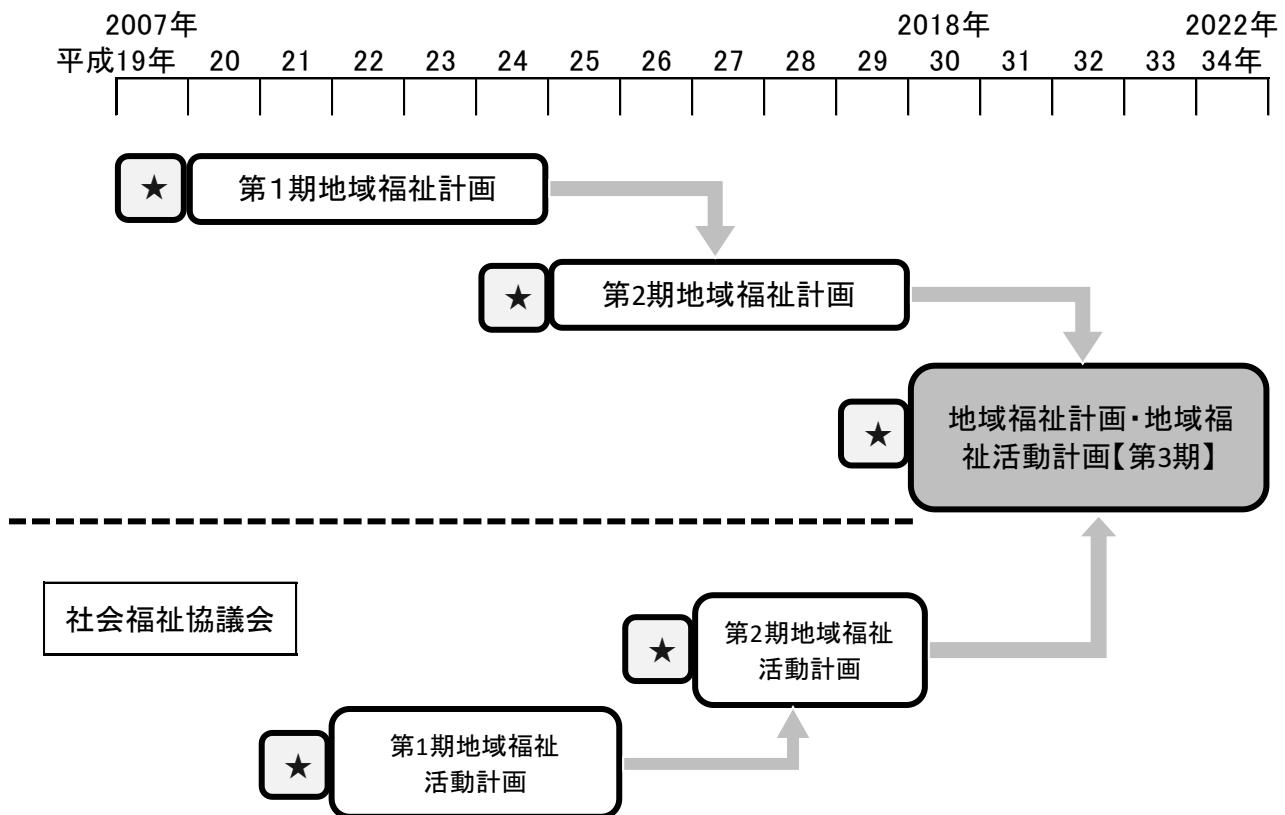
1 計画策定の趣旨

これからのまちづくりは、子どもから高齢者、障がい者などすべての住民が住み慣れた地域の中で心豊かに安心して暮らせるような仕組みを住民、地域、行政が協働でつくり、それを持続させていくことが求められています。

今回の第3期地域福祉計画では、近年の社会情勢や本市における福祉に関する新たな課題、国、県の動向を踏まえつつ、これまで、荒尾市社会福祉協議会が策定してきました「地域福祉活動計画」と一体的に策定を行うことで、更なる地域福祉の充実を目指します。

2 計画策定の期間

計画の期間は2018（平成30）年度から2022（平成34）年度までの5年間です。



計画の基本理念

みんなが主役！ふれあって、たすけあってそだちあう
福祉のまち あらお をめざして

第3期計画においても、第1期計画及び第2期計画で掲げた理念である「みんなが主役！ふれあって、たすけあって、そだちあう 福祉のまち あらお を目指して」を継承し、施策・事業の展開につなげます。本市で生活する地域住民一人ひとりが「主役」となり地域の生活課題を「我が事」としてとらえ、地域の福祉に一人ひとりが世代や分野などを超えて参画していく協働のまちづくりを進めていきます。

計画の基本目標

計画の基本理念を実現するため、4つの基本目標を定め計画の推進を図ります。

基本目標 1	支え合いとふれあいのある「あらお」にしよう！
基本目標 2	福祉サービスを利用しやすい「あらお」にしよう！
基本目標 3	健やかで活力あふれる「あらお」にしよう！
基本目標 4	安心・安全に暮らせる「あらお」にしよう！

計画の体系図

みんなが主役！ふれあって、たすけあって、そだちあう
福祉のまち あらお を目指して

基本目標1 支え合いとふれあいのある「あらお」にしよう！

- (1) 支え合いづくり
- (2) 交流・ふれあいの促進
- (3) 心のバリアフリーの推進
- (4) ボランティア活動の促進
- (5) 共生社会の推進

基本目標2 福祉サービスを利用しやすい「あらお」にしよう！

- (1) きめ細やかな情報提供
- (2) 包括的な相談支援体制づくり
- (3) 地域のニーズに対応したサービスの充実
- (4) 適切なサービス利用の促進

基本目標3 健やかで活力あふれる「あらお」にしよう！

- (1) 地域ぐるみでの健康づくりと介護予防
- (2) 子どもの健やかな成長
- (3) 生きがい活動の促進

基本目標4 安心・安全に暮らせる「あらお」にしよう！

- (1) 緊急時・災害時の助け合いのしくみづくり
- (2) 地域ぐるみでの見守り・防犯活動
- (3) バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり

基本目標

基本目標1 支え合いとふれあいのある「あらお」にしよう！

住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、地域の「支え合い」が重要になります。しかし、近年では隣近所での助け合いやコミュニケーション不足、地域行事の参加者数の減少など地域の「支え合い」や「ふれあい」が少なくなっている傾向があります。

地域の問題解決のためには、様々な世代や主体が互いに連携し、助け合える体制づくりが必要となります。そのために、日常的な付き合いを増やし、地域でのつながりを強めていくことが必要です。

評価指標	現状 (2017年)		目標 (2022年)
「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」市民の割合	32.2%	▶	45.0%
「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」と思う市民の割合	32.5%	▶	60.0%
住まいの地域の暮らしやすさ(近所との付き合い)について、満足と思う市民の割合	25.6%	▶	35.0%
ささえあい活動におけるいきいきサロン実施地区数	53地区	▶	65地区
なんらかの地域活動に参加している市民の割合	61.1%	▶	72.0%
民生委員・児童委員の充足率	86.3%	▶	100%
認知症サポーター数	8,229人	▶	12,000人

基本目標2 福祉サービスを利用しやすい「あらお」にしよう！

福祉に関する制度やサービス内容は、近年めまぐるしく変化しており、一人ひとりにあったサービス内容が求められます。そのため、専門性の高い相談窓口の対応や「広報あらお」を含め、様々な手段を用いて情報提供を行う必要があります。

また、社会経済環境の変化によって、誰もが生活困窮に至るリスクがありますので、平成27年度から始まった生活困窮者自立支援制度に基づくサービスの提供が重要となります。

評価指標	現状 (2017年)		目標 (2022年)
福祉に関する情報が必要な時に、なかなか情報が手に入らないと思う市民の割合	21.2%	▶	16.0%
生活困窮者支援終了件数	—	▶	25件 (5か年累計)
生活困窮者自立支援法(制度)について、聞いたこともあり、内容も知っている人の割合	7.6%	▶	20.0%
社会福祉協議会が受任する成年後見等の件数	2件	▶	10件

基本目標3 健やかで活力あふれる「あらお」にしよう！

食生活が豊かになり、生活様式が多様化する中、生活習慣病が増加し、健康寿命の維持を難しくしています。健康は、すべての住民にとっての願いであり、住民一人ひとりの健康は、地域福祉を支える基盤でもあります。健康的な生活習慣を確立するとともに、できるだけ要介護状態にならないよう介護予防を推進し、いつまでも健康的な生活を維持することが大切です。

また、少子化に伴い子育て環境が変化する中、子どもがより健やかに育まれるためには、保健的な支援と福祉的な支援の充実が重要となりますので、個々の状況に応じた支援が必要です。

評価指標	現状 (2017年)		目標 (2022年)
日々の生活において自分や家族の健康に悩みや不安をかかえる市民の割合	59.8%	▶	35.0%
特定健診受診率	32.4% (H28)	▶	60.0% (H35)
健康で幸せな生活を維持していると感じる市民の割合	80.8%	▶	91.0%
ファミリー・サポート・センター事業の会員数	330人	▶	380人
この地域で子育てをしたいと思う親の割合	56.6%	▶	100%
シルバー人材センター会員数	404人	▶	424人

※特定健診受診率については、荒尾市国民健康保険特定健康診査等実施計画に沿って目標値を設定。この計画が平成30年度から平成35年度の6年計画のため、6年後の目標値を記載しています。

基本目標4 安心・安全に暮らせる「あらお」にしよう！

熊本地震から、約1年半後に実施したアンケート結果では、全体の4割を超える人が地震に対して何も備えをしておらず、約2割の人が災害時の避難場所を知らないという現状でした。今後、避難体制や避難行動要支援者への支援体制の整備とともに、災害時の備えや避難場所の重要性について周知・啓発が必要です。

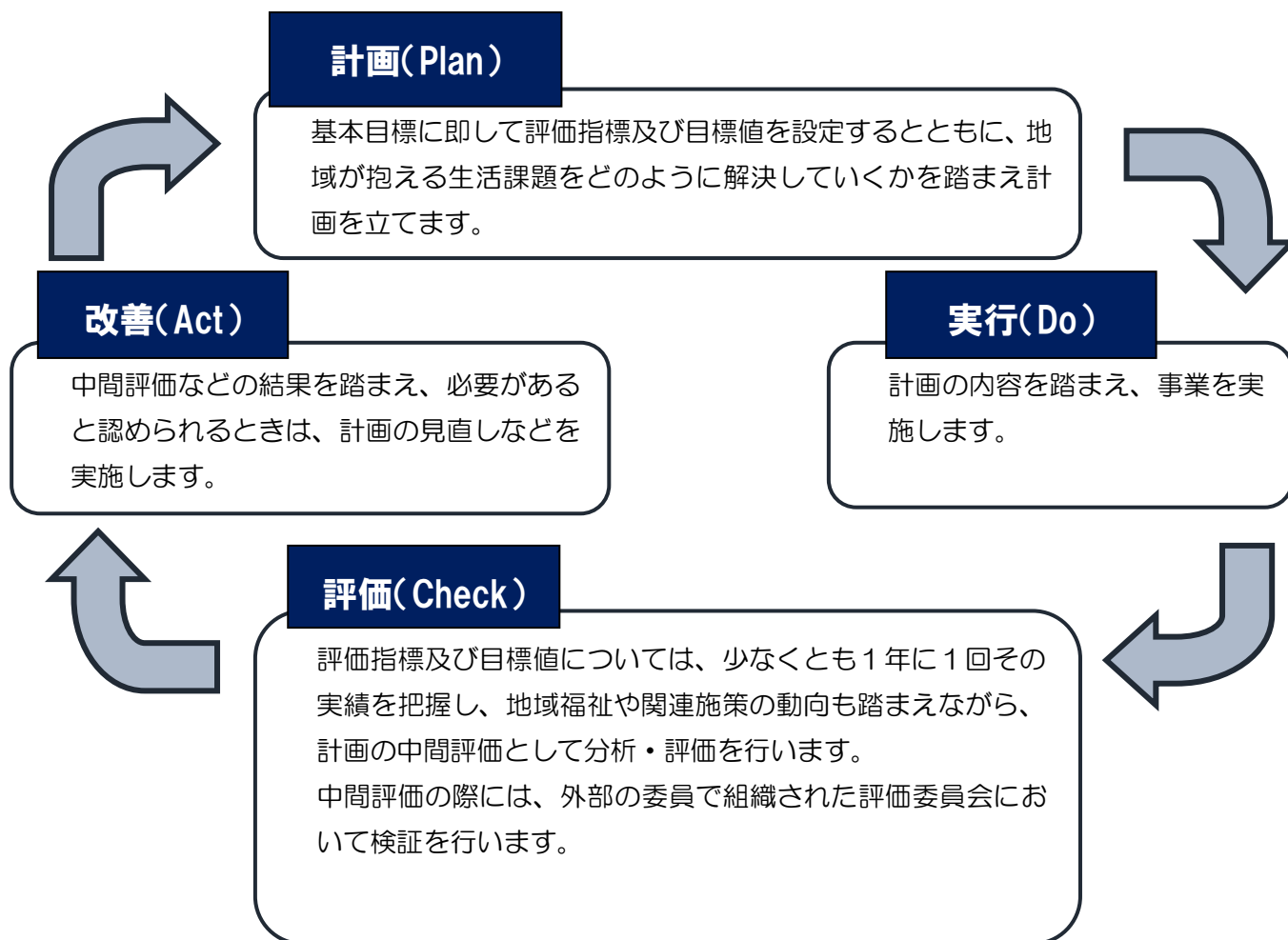
また、近年、刑法犯認知件数は減少傾向にありますが、振り込め詐欺やインターネットを用いた犯罪など犯罪自体が巧妙かつ悪質化しており、犯罪防止のため、地域で協力して犯罪の未然防止や拡大防止に取り組んでいくことが求められます。交通安全についても、交通事故死者数は減少傾向ですが、交通事故を未然に防ぐため、環境の整備に努めるとともに、高齢者や子ども、女性、障がい者などが安心して外出できるまちづくりが求められています。

評価指標	現状 (2017年)		目標 (2022年)
自主防災組織の組織率	80.1%	▶	100%
避難行動要支援者名簿の登録者数	1,098人	▶	1,400人
防災ボランティアの登録数	0人	▶	30人
安全だと思う市民の割合	76.3%	▶	80.0%

計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、地域のさまざまな担い手が、それぞれの特徴や能力を活かし、役割を果たしながら、お互いに連携を図り、「協働」による取り組みを推進します。

本計画の進捗状況を管理するため、評価委員会において、評価指標と目標値及び地域福祉に関する事業を定期的に把握・整理し、計画の進捗状況の点検や評価を行い、次年度以降の計画の推進及び事業内容の改善に繋がります。



【問い合わせ先】

荒尾市保健福祉部 福祉課
〒864-8686
荒尾市宮内出目 390 番地
電話番号：0968-63-1406
FAX 番号：0968-62-2281

荒尾市社会福祉協議会
〒864-0011
荒尾市下井手 193-1
(荒尾市総合福祉センター内)
電話番号：0968-66-2993
FAX 番号：0968-66-2994